

第11号の発刊にあたって

神奈川県理事(兼)政策局長
大竹 准一

神奈川県では、超高齢社会を乗り越えるために、食・運動・社会参加により病気になるようにする「未病＝ME-BYO コンセプト」を軸に、最先端の医療・技術を融合させたヘルスケア・ニューフロンティア政策を進めています。

そしてその先には、人生100歳時代を健康で、生きがいあふれる「スマイルエイジング（健康長寿社会）」となることを目指しています。

平成28年度は、「人生100歳時代の設計図」を描こうと、県民の皆様と対話を重ねてきました。県内の全大学の学長らに対し、シニアの学び直しなど100歳時代にふさわしい大学の在り方を検討してほしいと要望も行いました。

平成29年度は、人生100歳時代の総合的な取組みを進めるために、行政、大学、民間、NPO等の協働・連携による基盤づくりを推進していきます。

県内にある大学は、「人生100歳時代の設計図」の検討を進める上での重要なパートナーであり、大学の持っている専門的知見、人的資源はすべて県にとって宝です。県の政策を実現するために大きな役割を担っていただいております、大きな期待を寄せています。

このほかに、本号では、大学や大学生によるボランティアを通じた地域貢献活動にも着目し、特集を組みました。

地方創生、地域再生を目的に、自治体等と連携し、地域を志向した教育・研究に取り組む大学が増えており、本県における大学・大学生の力は今後ますます重要になることを実感します。

私たちが、明るい未来に向かって邁進していくためには、県政を取り巻く課題に積極的に対応することはもちろん、国、市町村と密接に連携し、企業、大学、NPOなど県民の皆さんの力を結集させながら、課題を一つ一つ解決していく必要があります。

本ジャーナルが、県内外の多くの方々にとって役立つものとなれば幸いです。